

平成30年度 第1回堺市北区区民評議会 議事録

開催日時	平成30年4月26日(木) 午後 3時00分～4時45分
開催場所	北区役所3階 302会議室
出席委員	天野委員・伊藤委員・大江委員・奥田委員・加我委員・加藤委員・小林委員 小松委員・椿委員・野田委員(五十音順)
事務局職員	吉田区長・田所副区長・堀井企画総務課長・六波羅課長補佐・中岡係長・阪口主査
出席職員	右川自治推進課長・関根自治推進課長補佐・谷村地域福祉課長 左近北保健センター所次長・金本子育て支援課長 西尾堺市社会福祉協議会北区事務所長
会 議	公開会議
傍 聴	傍聴者数3人
案 件	1. 開 会 2. 議 案 ① 多世代交流・協生のまちづくりについて 3. 閉 会
資 料	・会議次第 ・北区区民評議会配席図 ・北区まちづくりカフェ開催報告 ・「多世代交流・協生のまちづくりについて」に関する意見一覧

議事の経過	
発言者	発言内容
加我会長	<p>1 開会</p> <p>皆さん、こんにちは。大阪府立大学の加我でございます。今年度最初の区民評議会でございますが、昨年度に引き続き、会長の任務に当たらせていただきたいと思いますので、御協力よろしく申し上げます。</p> <p>昨年度は諮問事項であります、多世代交流・協生のまちづくりについて、堺市議会議員の皆様方との意見交換会も含め、6回にわたり議論を行いました。12月には中間報告も提出いたしました。</p> <p>今年度は、委員としての任期が2年と聞いてございますので、最後の1年となります。このメンバーで活発な議論をいただきながら、来年2月の諮問事項に対する答申の提出に向けて、皆さんから御意見をいただき、答申の内容を充実させていきたいと思いますので、この1年間もどうぞよろしく願いいたします。</p>
加我会長	<p>2 議案</p> <p>①多世代交流・協生のまちづくりについて</p> <p>それでは、本日の会議では、多世代交流・協生のまちづくりについて、中間報告において、今後の審議の方向性を3つに絞り込みましたが、その3つの方向性に資する効果的な取組について、具体的に検討をしていきたいと思います。</p> <p>中間報告の中で、今後の審議の方向性について記述がありますが、皆さんへの宿題として、事前にこの3つの方向性に対する御意見をいただき、資料1にまとめています。</p> <p>一つ目が資料1の「①各種団体間や世代間の交流と連携の促進」です。多世代交流に携わる人材や団体などが交流・連携することにより、弱点を相互補完するということができ、効果的な取組の発見やイベントなどへの異なる世代の参加につながる可能性があるため、各種団体間や世代間などの交流や連携について検討していくというものです。御意見としては5点いただいております。後ほどこれを充実させる、もしくは補足するような御意見をいただきたいと思います。</p> <p>二つ目が「②多世代交流に資する取組の充実」です。これは、様々な年代の人達が共通の素晴らしい体験をしながら、成長していくことができる取組が多世代交流につながっていくのではないかと。地域の資源をうまく活用しながら、みんなが参加しやすいきっかけづくりなど、多世代交流に資する効果的な取組について検討するというものです。②については、皆さんから多くの御意見いただいております、20点の御意見・アイデアを掲載しております。</p> <p>三つ目が「③効果的な情報の発信と共有」です。地域では知恵を絞って協力しながら、様々な取組を行っていますので、そのノウハウの共有やさらに交流を深めるため、地域や団体間の情報を共有することが大事ではないかと。また、住民などに活動内容がうまく伝わっていないことで、その活動に対する関心が薄れてしまっているということもあるのではないかと。このような観点から効果的な情報の発信と共有</p>

について検討するというものです。皆さんからは6点の御意見・アイデアをいただいております。

この3つの方向性についての効果的、具体的な取組案について、意見交換ができればと思います。

少し長くなりましたが、資料1の1ページに戻っていただきまして、方向性の一つ目、二つ目、三つ目というふうにして、区切って御意見をいただければと思います。

まずは、「①各種団体間や世代間の交流と連携の促進」について、5つの御意見・アイデアをいただいております。

校区や単位自治会のレベルでは各種団体間や多世代交流・連携がかなりできていると思われるため、成功事例についての地域リーダー代表による情報交換会や事業見学会を実施して広げていくこと。

自治会連合会では多種多様な事業を展開しているが、そうしたことは地域全体の参加型が基本となっており、これを個々の団体が実施する事業に地域が参加する分科会的なものに変えていくことで子ども会や学校、老人会など、各種団体の連携と多世代交流につなげていくこと。

区内の同種の活動グループに集まってもらって、多世代交流をテーマにしたワークショップを開催すること。

百舌鳥、中百舌鳥、西百舌鳥の3校区では、八幡宮祭礼において、子ども会から推薦された子ども達が青年団の指導のもと太鼓打ちの練習をするなど、行事を通じて団体間の連携による多世代交流を行っていること。

このような御意見をいただいております。これらについての追加や補足などの御意見をいただければと思います。

奥田委員

①のところ、一体誰がどこでやるのかという具体的な部分が少ないと感じました。ワークショップを開催するにしても、例えば、そのテーマについての課題などを明確にしていなければ、議論しても単なる懇親会になってしまうと思います。この前の日曜日に自主防災の説明会に行きましたが、そこでは自助と共助と公助について強調されており、非常に分かりやすく勉強になりました。例えば、共助にしても、地域間で何をお互いに手助けするかを明確にすることで、より具体的な意見交換や議論につながっていくのではないかと思います。ですから、活発なところや不活発なところがあれば、不活発なところに焦点を絞って、議論を進めていくべきで、その辺りのことも議論していくとよいのではないかと感じています。

加我会長

ありがとうございます。非常に貴重な御意見をいただいたと思います。自主防災の中でも具体的なテーマを設定すれば、興味を持っている方々が集まってくるということです。もう少し前の段階として、何をそこで議論したらいいのかということがわからない段階もあると思います。こうしたワークショップというものは、ある特定のテーマで話しやすいということもありますし、雲をつかむようなテーマでわからないということもあると思います。もしかしたら、この評議会も初めはそのよ

	<p>うな状態だったかもしれません。話し合うテーマを発掘するためのワークショップもあるかと思います。自治会、子ども会、老人会などの会合や、この区民評議会に行ったことがないという方も多いと思いますので、一度集まってみませんかと呼びかけることは効果的かもしれません。私は公園の使い方や公園のつくり方などをテーマに取り組んでいますので、あまり使われなくなった公園について考えるというテーマなどもあると思います。どちらが良い悪いではなく、多分両方の取組方があるのではないかと思います。</p>
<p>大江委員</p>	<p>①については、漠然としているところもありますが、全体的に意見を見させていただいて、かなり具体的な取組事例が出ていると感じました。この区民評議会ですらまとめたものを、それぞれの各団体が採用して、さらに各校区に広げようとした場合、どこがイニシアチブをとるかというところが非常に難しいと思います。例えば、行政がする場合、行政側が旗を振るのか、ということになりますし、区民が自主的にする場合どこがやるのかということになり、今まででも非常にやりづらかったことがあります。社会福祉協議会がふれあい喫茶などを始めた時は、社協が旗を振って、見学会などを開催しました。これが非常に効果的だったので、モデル事業からすべての校区に広がっていったという事例があります。どこかが上手にイニシアチブをとって、各校区で優れているというものに焦点を絞って始めていくようなことがあっていいと思います。自主的に始めていくことも非常に大事ですが、同時に実践的にどうしたらいいかということも考えていきたいと思っています。</p>
<p>加我会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。本当に自主的に任せてよいものか、逆に、行政からのトップダウンだけでも進まないのではないかなど、御意見が大江委員からありましたが、今、求められているのは、行政からのトップダウンと自主的なボトムアップの双方向だと思います。しかし、双方向だからと言って、黙っていいのかというと、また悩ましいところだと思います。</p> <p>それでは、②についても簡単に御紹介させていただきます。時間の都合で、飛ばし飛ばしの御紹介になりますが、②も含めて皆さんから御意見をいただきたいと思っています。</p> <p>「②多世代交流・協生に資する取組の充実」ということで、まず1番は「堺版コミュニティ・スクール」のプログラムをもっと活用すること。</p> <p>2番は学校の日曜参観を利用した防災訓練を学校行事に組み込むことなどの御意見です。</p> <p>3番は成人式終了後に中学校区単位での新成人と先生、地域の方が交流するという取組の紹介です。</p> <p>4番、5番は若者を主体とした実行委員会が企画・実施するプログラム、例えば「大泉緑地におけるの走ろう会」などのイベントの実施に際して、子どもや若者に企画段階から参加してもらうように呼びかけるという御意見です。</p> <p>6番は昨年、全国的にも注目されましたが、堺市では高校生のダンス人口が多い</p>

ことから、北区交流まつりのステージなどにダンス大会を追加するというものです。

7番は、校長先生には話し上手が多いので、退職した校長先生を地域の人材として活用していくという御意見です。

8番が夏休みに小・中学生と地域の方が小学校に集まり、宿泊とキャンプファイヤーを実施し、子どもの思い出づくりを行うというもの。

9番が竹内街道・横大路が日本遺産に認定されたことを機会に、ウォーキングを行うというもので、小・中・高・大・世代合同というのがキーワードになるという御意見です。前期高齢と後期高齢という分け方がありますが、私の両親などを見ていますと、やはり80代、90代になると、急激に外に行きにくくなることから、10番では、例えば図書館を気兼ねなく利用できるように、主に60代、70代の方が協力することができないかという御意見です。

11番は高齢者が子どもに昔遊びを教えるというものです。

12番はヨガやカキラのような子どもから大人までができる運動をテーマにしたイベントの開催です。

13番は赤ちゃん向けから高齢者向けまでの様々な種類の絵本を活用するというものです。

14番は事業に参加してもらうことが大事であるため、朝市やふれあい喫茶等の身近な事業の体験を通じて、楽しさやおもしろさを知ってもらい参加を呼びかけるという御意見です。

15番は神社やまつりなどの歴史がある地域に比べて、新興地では活動に苦勞することが多いが、そんなところでも手づくりのおみこしづくりなどを行い、まつりを開催するなど考えられるのではないかと御意見です。

16番は地域の盆踊り大会や運動会は防犯や騒音の問題で開催しにくいですが、小学校や中学校の校庭を使用すれば開催しやすいのではないかと御意見です。

17番は河川の清掃や観察、遊びの会を開催するなどの活動を通じて、子どもたちと一緒に活動をしていくというものです。

18番はワークショップ形式の会議を定着させ、年齢や立場を超えた誰もが自由に意見を言える場を増やせば、若い世代の参加も期待できるという御意見です。

19番は北区交流まつりをうまく活用して、これまでと違った参加型体験メニューなどのブースを設置することで、若い女性を呼びこめるのではないかと御意見です。

20番は和泉市のリサイクルセンター「彩生館」をモデルに、リサイクルをテーマに、おもちゃ修理・交換会、工作などの講習会を通じて、多世代交流を行うというものです。

これらをどのように情報発信していくのか、共有していくのかということは、少し異なることだと思いますが、この二つ目の方向性と一つ目の方向性は深く関わるものだと思います。ほかにもこのような取組が考えられるなどの御意見、もしくは補足することなどがあれば、御発言をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

<p>天野副会長</p>	<p>たくさんの意見が出ていますが、総じて考えてみますと、やはり自治会が主体となって、実施していくものが多いと思います。何度も議論していますが、自治会に入る人が減っており、現在、堺市全体では6割を切っていると思います。私の金岡南校区では53%です。地域に居住している約半分の方が自治会に加入をしてないこととなります。そのような人をどのようにして取組に参加してもらうかが非常に難しいところです。今、様々な意見が出ていますが、これを掘り下げていくと、この問題に突き当たるのではないかと思います。ですから、この点について、これから1年間かけて検討しなくてはならないだろうと思っています。</p>
<p>奥田委員</p>	<p>自治会活動は自治会に入っている人がするものですが、自治会員以外の人も含めたプログラムを地元でつくって、地道に取り組んでいくべきだと思います。</p> <p>それから先ほど説明のあった和泉市のリサイクルセンター「彩生館」ですが、昨日も行きまして、子どもの昔遊びの材料として、自転車の車輪で輪ころがしをつくって、一つ250円で売りました。あの施設で働いている人に、なぜ彩生館ができたのですかと聞いてみたことがあります。家庭から出されて捨てられるごみが忍びないということで、主婦たちが何とかならないかと、和泉市に問いかけて作ってもらった施設だそうです。そこにシルバー人材センターや色々な人に集まってもらって、主婦感覚で売り上げた利益を運営費に充てているとのこと。自主的な活動から始まって行政が援助しているものです。このように地域が手を挙げて、それを行政が支援するという仕組みを整えば、色々な人を巻き込んでいけるのではないかと考えています。</p> <p>先ほどの説明の中に、おもちゃの修理や交換のことがありましたが、彩生館でもおもちゃ病院をやっています。朝10時から12時までやっていますが、ひっきりなしで子どもがおもちゃを持ってやってきますので、受付するだけで精一杯という状況です。</p>
<p>加我会長</p>	<p>ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。</p>
<p>小松委員</p>	<p>リサイクルセンターについての御意見がありましたが、堺市のクリーンセンター東工場も色々なことを頑張っていてやっていますし、思いを持っている人もたくさんいらっしゃるので、先ほどの御意見をヒントにして、交流できる場をつくっていくとうまくいくかもしれません。</p> <p>北区で様々な人たちがつながりあって、様々な場を活用するという意味で、私は川のことで、②の17の意見を書かせていただきました。資料では、清掃活動が主で出ていますが、遊びが本筋です。遊べる川を取り戻したいということで活動しているわけです。同じように、場をつくるということで、東工場や彩生館のような楽しい活動ができれば、すごい広がりを持ったつながりができるのではないかと思います。昔のあまりごみがなかった時代を知っているお年寄りが頑張れて、子どもたちも環境学習ができますし、そこでお互いがつながり合うような活動の場が</p>

できたらいいと思ったりします。

先ほど会長さんから公園のお話をいただきましたが、3月31日に、さくら今池公園がオープンしました。今まで柵に囲まれていて、いつできるのかなと言っていた地元の人たちが、どんどん利用しています。スケボー持って来る人がいたり、グラウンドゴルフを楽しむ高齢者がいたり、とにかく歩くという人がいたりします。やっぱり公園は地域の元気のもとになっていると感じました。このような場ができていくことは、素晴らしいと思います。この公園のオープンをきっかけにして、4月14日に五箇荘探検をしました。そのあたりの地主であった方などが参加してくださって、本当におもしろい探検になりました。参加した方たちは、路地を歩きながら、こんなところに歴史的な雰囲気を持った町並みが残っていると喜ばれました。そして、船堂公園とさくら今池公園を比べて、あちらの公園には時計がある、自然の雰囲気が大事にされている、こちらは防災施設が整っている、など色々ところを見て、小学生からお年寄りまでが一緒になって思いを語り合いました。地域の公園を大事にしながら、住民が助け合って、つながりをつくっていくことができたと思って喜んでいきます。

大和川についてですが、図書館でおもしろいもの見つけたので、少し紹介させていただきます。「堺市役所北支所開所記念作品集」というものが作成されていて、小学生の作品がたくさん掲載されています。その冒頭の作品が大和川をテーマにしたもので、「大和川行ったよ。そしたらめだかの赤ちゃんがいたよ。朝礼みたいに並んでいたよ。おうちでかうことにしたよ。小さいよ。かわいいよ」という詩が掲載されています。他にも二つほど、大和川が出てくる作品があります。二つの作品にこう書いています。・・・昔はすごくきれいなところで泳げていたそうです。今は大和川の土手のところでも危ないと言われていきます。今は日本で一番汚い川だけど、一生懸命頑張れば、きっと未来ではきれいになって、私の住む町もにぎやかになると思います・・・こんなことを18年前の子どもが書いていたことが分かりました。今は、随分変わってきて、毎年たくさんの子が来て遊んでいます。本当に私達もわくわく楽しみにしています。4月末に「みんなの大和川展示会」というイベントを初めて国の施設で開催します。当初は「よみがえれ！大和川」というタイトルを考えていましたが、皆で話し合って、「元気だね！大和川」に変更しました。まだ昔のすばらしい大和川とまではいきませんが、今までは背中を向けていた住民が川に近づいてきて、ずっと続けて活動している人達とつながり、幼い子どもから高齢者までが楽しく交流していく川にしていこうという意識を高めていく場にしていければいいと思っています。住民が行政と一緒に頑張っていく場が色々ところでできていくことによって、変わっていけるのではないかと思います。

奥田委員

やはり、誰がするのかということ意識の方がよいと思います。結局、アイデアがあっても、誰がやるのかということになると思います。私は、マルシェなどをする時に、講座を開催します。そこで影絵講座をしたことがあります。講座が終わった後に、影絵クラブができました。また、ボランティア講座を開いた時も、同

	<p>じようにクラブができました。私も40、50のとき、男性だけの半年間の講座を受けて、それが終わると、「男クラブ」というクラブができて、結構長く続けました。ですから、そういった講座を仕掛けることで、自主的なグループをつくっていくというのも一つの方法ではないかと思います。</p>
<p>加我会長</p>	<p>ありがとうございます。いずれも何かのきっかけがあれば、変わっていくということだと思います。</p>
	<p>私からは、二つほど意見を出させていただきましたが、特に学校の日曜参観を利用した防災訓練をぜひとも実施していきたいです。北区の中でも、自治会とともに、日曜参観を利用した防災訓練を実施している校区がありますので、このような取組を北区全体に広げていけたらよいと思います。</p> <p>八幡宮の太鼓叩きの意見についてですが、太鼓叩きもなかなか子どもが参加してこなくなりました。6年生は大太鼓を担当し、3年生は小太鼓を担当すると決められていまして、2、30年前は希望者が多くて、くじで決めなければいけなかったという話を聞いたことがあります。今は子どもが少なく、5年生と6年生と一緒にするという状態です。子ども会に入っている子を対象に考えるので、どうしてもハードルが高くなっています。子ども会に未加入でも良いといった条件を保護者に持ちかけて、参加してもらえそうな雰囲気作りが大事で、私自身も関係者として反省し、考えています。</p>
<p>加我会長</p>	<p>ありがとうございます。ほかに皆さんのほうから御意見はございますか。</p>
	<p>幅広い年齢層の誰もができる活動が資料の中にあると思います。ダンスやカキラは、最近流行しているということですが、子どもから大人までのみんなが集まってできるようになれば良いと考えます。では、こういった活動を広げるにはどうすれば良いのでしょうか。個々の趣味が同じ方たちが集まるというのも1つですが、ある機会に北区全体で何かを考えたらどうでしょうか。世代に関係なく、どの世代も参加できるような企画として綱引きがありました。昔は子どもたちの綱引きがにぎやかだったこともあり、大人も応援に出ていました。子どもが集まると大人も出てきますので、そこに大人が参加可能なものを加えればもっと広がっていくと思います。優先順位がありますので、どういった活動が良いのかとはすぐに決めることはできませんが、こういうことを考えてみたらどうかと思います。</p>
<p>野田委員</p>	<p>②の13番に書いてある絵本の意見ですが、春休みに産業振興センターで「絵本とわたしの物語展」というイベントがあり、様々な世代向けの絵本やベストセラー絵本のコーナーなどがありました。絵本が出版された時代の背景を探るといったコーナーもあり、その時代の例えば昭和のお部屋の展示やその時代に出た名作絵本を並べた展示もありました。そして、さすが現代だと思ったものとして、VRによって花咲かじいさんの体験ができるというコーナーもありました。自分の顔が花咲か</p>

じいさんになって、手を動かすとお花が咲いていくというものです。無料で家から近いこともあったので、期間中二度も行き、子どもがすごく喜んでいました。二度とも様々な世代の方が来られていて、子連れの方はもちろん、御年配の方も結構来られていました。絵本には高齢者向けのものもあり、本によっては、高齢の方が読まれるとセラピー効果のような癒しの効果があったりすることです。高校野球の県大会初戦でいつも敗退している子たちが、監督から1年間絵本を読み聞かせされ、最初はばかにされているのかなという感じだったものが、だんだんと監督が話していることを脳でイメージするようになり、最終的に1年間続けた結果、県大会の決勝や準決勝まで進むようになったという話も展示の中にありました。絵本は子どもものものと思われがちですが、様々な年代に向けた絵本があることを知りました。年代別の展示においても、自分の子どもは仮面ライダーが好きで、昔の展示コーナーに初代の仮面ライダーベルトがあり、子どもが「これは何？」と興味を示して、近くの展示を見ていた大人が「これは昔の仮面ライダーだよ」と言って、ちょっとした交流が生まれたりしました。意外とこういう誰でも来られるイベントは、家族単位で行くものではありませんが、交流が生まれておもしろいと思いました。

意見としては出していませんが、子ども食堂のお手伝いに月に1、2回行っています。5月に子ども食堂の団体が主催で、ジャズフェスティバルが行われます。そのジャズフェスティバルを通じて得た収益を今度は堺市の各子ども食堂に分配するという動きになっていると聞き、イベントは、実施して終わりというものが多いことが問題かと思いますが、そこで得た結果を次につなげるということができれば、もっと交流が活発になると思いました。

加我会長

ありがとうございます。ほかに皆さんから何かありますか。

天野副会長

小林委員にお聞きしたいのですが、子ども育成会と子ども会のつながり、それと自治会とのつながり、これについて教えていただけませんか。

小林委員

子ども育成会というのは、堺市子ども会育成協議会のことです。私たちは、「市子協」と呼んでおります。7ブロックに分かれおり、「ブロック」という名称を使っていますが、実際は区を指しており、「北ブロック子ども会」というのは北区の子ども会ということです。そして、「連合子ども会」という場合は、自治連合会の下部組織という位置づけとを考えていただければいいと思います。各校区の中にまず自治連合会がありまして、連合自治会の中に各自治会がございます。各自治会の中に子ども会があつて、私たちは単位と呼んでおりますが、単位子ども会、単位自治会、連合自治会に入っている自治会員の家庭の子どもが子ども会に加入するという形が基本になっています。しかし、今は、こういう時代ですので、自治会には入っていないけど、子ども会だけ単独で入っているという子どもも多数いらっしゃいます。

天野副会長

今、困っているのは、おっしゃったとおり自治会に入っていないけど、子ども会

	<p>だけは作っているという状態です。子ども会だけを作りますと、当然ながら連合の子ども育成会の下に入るわけです。子ども育成会には我々連合から補助金を出していますが、これはあくまでも自治会に対しての補助金なのです。ところが、自治会に入っていない子どもがその中にたくさん入ってきますと、お金の分配が非常に難しくなり、自治会に入っている子どもの親からは「どうしてあちらにお金を渡すのだ」という意見が出てきたりして、統一性がとれず苦勞しているところです。</p>
<p>小林委員</p>	<p>校区によって事情が違うと思います。金岡校区や金岡南校区、それから百舌鳥校区などは、単位自治会の数が17町会、20町会とすごく多いので、一つの子ども会の会員が3家庭で子ども5人などになっています。中百舌鳥校区などは単位が少ないので組織は大きく、一つの単位で何十人もの会員がいます。子ども会だけ入りたいというのは、ソフトボールをしたい、ポートボールをしたいといったスポーツ関係だと思います。スポーツをやりたいので、子ども会のチームに入りたい、そうすると子ども会に入らないといけないという流れです。自治会には入っていない子どもさんが多数ではないと思いますが、こういったケースがあるということだと思います。こういったケースで、会費を集めている校区もあるみたいです。自治会に入っていないので、子ども会の会費は徴収していないと思いますが、自治会に入っていない状態で補助をもらっている団体に参加するという場合は、会費を集めていると聞いております。金額が多いか少ないかは分かりませんが、会費を集めてきちんと、例えば3,000円払っているという形をとっていると聞いております。</p>
<p>椿委員</p>	<p>子ども会の役員を引き受けてほしいという話が順番に回ってくる場合があります。それを断るために話が回ってきそうになると、子ども会をやめて、順番が過ぎたらまた子ども会に入るという人もいます。順番に役を引き受けてくれる人がいたら良いなと地元としては思います。</p>
<p>小林委員</p>	<p>北ブロックの子ども会の役員では、私達もそうですが、実際に小学生の子どもがいなくても、一度役員をしたらそのままずっとお世話をしている役員が何人もいます。逆に実際に小学生の子どもがいると、まだ手がかかるので役員はできないです。北ブロックの子ども会の場合、4分の3ぐらいは現役の小学生のお母さんで残りの4分の1ぐらいが継続的に長年お世話をしているという役員です。竹川委員もそうですが、そこで企画・運営と回って、任期は2年単位です。最近は、1年の方もいらっしゃるようですが、現役のお母さんたちも一生懸命やってくださっています。特に、ブロックの役員になるようなお母さんは熱心な方で、やる気があって引き受けてくれます。例え、くじで当たったとしても、役員として出てきた以上は一生懸命やってくださるという方はよいのですが、確かに役員が回ってきそうになったらやめる人はいます。子どもは子ども会をやめたくないのにやめてしまうということがあります。役員の仕事量は、校区によって単位によって違いますので、ある校区の役員は大変で、別の校区の役員はそれほど大変でないということがあります。仕事の量はそれぞれの事情で違いますので「そんなに大変じゃないからやってください」、</p>

<p>加我会長</p>	<p>「役員が回ってきますのでお願いします」とは言いにくいです。ですから、その辺りをもう少し嫌がらずに、例えば、先輩が「役員をするとお友達が増えて、楽しいと思う人も多いよ」、「子どもたちも喜んでいよ」というふうに啓蒙していただくことが大事だと思います。</p> <p>ありがとうございます。ほかに、伊藤委員、何かありますか。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>先ほど小松委員がおっしゃった公園の活用のように、何か一つのことを決めて、それをベースとして何か活動を始めていくことも一つの進め方だと思います。とりあえず一つ実施してみて、それを継続して実施していくと少しずつ定着して広まっていくということがあると思います。何を始めていくかについては、よく考えてプログラムを作っていく必要があると思いますが、何かを始めていくということが大事だと思います。色々な案があると思いますが、その中で何か始めていくことで次の景色が見えてくると思います。</p>
<p>奥田委員</p>	<p>公園でのプログラムについて、まちづくりでのアイデアとして出したことがあるのですが、オリエンテーリングという案もあると思います。我々の校区に船堂公園がありますが、公園の中にポイントを設置し、メーター数を決めてそこに記帳できるものを置けば、何かイベントの際にオリエンテーリング大会ができます。高齢者の方が散歩する際に、公園のポイントを今日は幾つ回るなどの目標にしたりできます。このように高齢者も子どもも楽しめるのではないかと思います。</p> <p>それから子どもから高齢者までのつながりについて、同じことは当然できないですが、それぞれの世代でできる部分を分担することはできると思います。私は岸和田の生まれですが、小さい頃はだんじりを曳いていますが、実はロープを曳いているだけで実際には青年団がだんじりを曳いています。壮齢になるとだんじりに上って、右に回れとか止まれとか、後ろで方向を決める指揮をします。もっと壮齢になるとだんじりの組織を維持することになります。更に高齢になると、ロープの傍に伴走します。これは、子どもがロープを離してしまうと踏まれて怪我をしてしまいますので、伴走して、ロープを離しそうになったら引き離す役割です。</p> <p>その他に、私は「大泉緑地におけるの走ろう会」を提案しました。実はYMCAでチャック・ウィルソンが提言したチャリティランというものがあるのですが、これも思い切り走れる班と、時間を決めて走る班などで制限が整理されています。力のある人が走れるし、力のない人はその制限内で歩いてもいいというものです。</p> <p>このように、その地区それぞれの世代の役割を決めたプログラムを決めればできるのではないかと思います。</p>
<p>野田委員</p>	<p>今、奥田委員がおっしゃった「走る」ということですが、以前に、「ラララRUN」というイベントに参加したことがあります。金岡公園で大人が走るのですが、子どもを連れて行って公園内を好きなだけ走ってもと良いというもので、走ることができる子は大人と一緒に走ったらいいですし、小さい子どもは天気がよかったら</p>

グラウンド内で、雨のときは室内で遊べるというイベントでした。

その他に、交流を目的としたイベントではないのですが、大泉緑地で子どもたちが大きな何メートルもの紙に、絵の具でべちゃべちゃになってお絵かきをするという、青空のもとでお絵かきをしようというイベントに行ったことがあります。その時に、大泉緑地の同じ芝生で、高齢の方が輪ゴムで何十メートルも飛ぶような紙飛行機で遊んでいました。子どもが興味を持って寄っていくと、その高齢の方が飛ばし方を教えてくれて、帰りにはその紙飛行機をくれました。子どもは、家に帰ってからも「公園で飛ばす」と言って、喜んでいました。

様々な世代が参加できるイベントは、もちろん大事だと思いますが、同じ場所で違うことをしていても、それぞれが興味を持つと、交流が生まれるということもありますので、それはそれで良いのかなと思いました。

小松委員

質問も含めてなんですが、②の9番の小・中・高・大・世代合同の「竹内街道・横大路一泊ウォーキング」というのはすごいですよね。実現すればおもしろいし、指導者が育っていくと思いますが、どんな条件での実施を想定しているのでしょうか。

実は、今、長尾街道をテーマにしたまちおこしに取り組んでいます。「長尾ichiまつり」というイベントを8月4日と5日に実施しようとしています。そのプレイベントとして、4月1日から30日まで写真展もしています。北区役所で開催した「三街道写真展」で使った写真を借り出して、少し追加しただけのものですが、1カ月間、展示を行って、地元の人が見に来て来ています。北区で作成してもらった「長尾街道と五箇荘探訪マップ」が大好評で、皆さんがすごく喜んでくれています。22日には、地元の80代の方や少し離れた地域から来てくれた30代の方たちとおしゃべり会をしました。それぞれの時代背景をもって、街道の雰囲気の話をしてきて、本当におもしろかったです。そこで、地下鉄の北花田駅が開業した途端に、人の流れが変わって長尾街道が廃れたと言う方がいました。その前から、廃れていると思っていたのですが、それまでは商店街として結構活気があって、パンなどもよく売っていたのに、団地の人みんな北花田や新金岡に行ってしまったから、変わってしまったということです。このような話を聞いて、とても自分たちの地域に愛着を持っている人たちがいらっしゃるということが分かりました。もともと「長尾ichiまつり」をやりたいと言いだした人たちは、長尾街道が竹内街道と並んで長い歴史があるらしいということだけで集まり始めて、毎月集まっているうちに、楽しくなってきたというものでした。博物館の学芸員だった方が、堺県だった時代の明治10年、明治天皇が竹内街道ではなく長尾街道を通して堺に来られた。富岡鉄斎という大鳥大社の宮司が描いた街道の絵巻物の話を皆さんにしてくれました。長尾街道と竹内街道の評価は、時代ごとに異なっており、今は、竹内街道がとても評価されていますが、そうではない時代もあったということがわかって、皆さん喜ばれました。日本遺産になっているのは竹内街道ですが、長尾街道も頑張ろうと取り組んでいます。一泊ウォーキングができるかどうかは分かりませんが、色々なことをしていこうと思っています。

<p>大江委員</p>	<p>今、歴史カフェがきっかけで、住民と行政が関わりをしっかりと持ちながら、色々なつながりもできていっています。そういったことを大事にして、おもしろいイベントをしかけていきながら、若い世代が関心をもってくれて、高齢者がしっかりバトンを渡していき、その中で生きがいを見つけしていくようなことを続けていければと思っています。</p> <p>子どもたちの色々な地域学習、そして色々な世代がお互いを思いやるという体験をすることが大事ではないかと思います。いわゆるコミュニティ・スクールの場合も同じで、高齢者と子どもたちのお付き合いの場として、コミュニティ・スクールのことを御意見として出されている方がいらっしゃいますが、これは、学校の子ども育成のためにも非常に重要なことだと思います。</p> <p>今、公園で思いついたのですが、中学生も含めて子どもに、北区のタウンフラワ－のポーチュラカを育てることを教えたらどうでしょう。金岡では秋に収穫祭をしますが、中学生がコスモスを植えて、それを収穫祭の時に、希望者へ配るということをやっています。ポーチュラカが北区のタウンフラワーになっているわけですが、子どもたちは、どこからか花がくるというだけで終わっています。冬になると、私のまちでは別の花を植えています、ポーチュラカが冬を越えてつながるのであれば、つなげていくことも考えて、組織的にやったらどうかと思います。自主的にはなかなかできないので、ある程度、旗を振るところがないといけないと思います。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>②の1番に記載されている「堺版コミュニティ・スクール」とは、具体的にどのようなものでしょうか。</p>
<p>奥田委員</p>	<p>堺版コミュニティ・スクールとは、堺市がモデル校を選定して、平成29年度から本格的に実施しているものです。学校が地域担当教師、地域が地域コーディネーターを選任して、学校協議会を置いて、地域と学校が活動を議論していくというのが始まっています。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>それでは、各学校で地域のことを学ぶための取組があるということですか。</p>
<p>大江委員</p>	<p>金岡校区では、一昨年までモデル校としてこの事業を実施していました。これは何かと言うと、地域の人々の力を活用して、子どもを家庭と地域と学校で育てるという趣旨のものです。「PTA」ではなく「C」つまり、「コミュニティ」が入るということです。地域も協力して、子どもの育成をやっていくというものです。これは、校区によってやり方や構成の仕方が色々と違います。金岡校区では1年生から6年生まで、必ず1回は地域学習、総合学習をします。1年生は幼稚園の子どもたちと交流し、2年生はまち探検をするなどです。このような形以外でもいいのですが、地域との交流を行うことは非常にいいことです。地域との交流は前からあったのですが、それを堺市は「堺版コミュニティ・スクール」として実施しているということです。</p>

伊藤委員	わかりました。どうもありがとうございます。
奥田委員	少し補足しますと、コミュニティ・スクールについて書かれた本があって、その中に、昔から地域の技術や才能をもった人が学校を支援するという一つの方向がありますが、それだけでなく学校から地域へという双方向の取組を意識するべきで、これがコミュニティ・スクールの基本だと書かれています。
加我会長	加藤委員、いかがですか。
加藤委員	<p>小学校の取組の一つとして、こども園に小学生が来られます。小学2年生がまち探検でこども園に来られた際、色々な質問をされます。10人ぐらいのグループに、先生一人と保護者何人かがついて来られるのですが、大人の力は前に出さずに、子どもたちが挨拶から質問までをします。「なぜ保育士さんになったのですか」などの素朴な質問から「仕事をしていて大変だったことは何ですか」「楽しいことは何ですか」などの子どもらしい質問もあります。6年生も中学校に入学する前に、保育体験ということで、1クラスずつ来られます。先生方からは、学校の中での顔つきと、乳幼児を前にした子どもたちの顔つきが全然違うとよく言われます。これは、自分より小さな乳幼児から感じられるもので、大人が教えてあげられるものではないと先生方は感動して帰られます。園児もお兄さんお姉さんたちが来ることで、いずれ私たちもあのように大きくなって、こういうお話ができて、お世話ができるようになるということを漠然と感ずることができそうですので、とてもいい取組だと思っています。毎年、こども園から小学校へお願いに行ったり、小学校の方からも来られたりしています。</p> <p>多世代交流の取組の御意見が色々出ていますが、園長会でも小学校とのつながりに力を入れてくべきということで、北区の校長会と園長会がまず交流会を持ち、さらに現場の教職員と保育者が交流会を持つことで、園生活と小学校生活をうまくつながられるようにしましょうという動きがあります。園の中、小学校の中だけの単体ではなく、色々な面でつながっていかれたらと考えています。</p> <p>先ほど、花についての御意見がありました。何年前に、手を挙げた園がプランターとひまわりの種をいただいて、園児たちが花を咲かせて、それを本庁に持って行くという取組がありました。子どもたちも意欲的に花を育てていましたので、地域に花を咲かせていくという取組もありかなと思っています。</p>
加我会長	本日、皆さんからいただいた御意見を書きとめていただきたいと思います。あと、もう一つ、ありがたいことに皆さんから公園にまつわる御意見をたくさんいただきました。これは、学生にも伝えたいと思いますし、私は、行政計画の中で、公園のあり方についての会議に出席させてもらっていますが、そこでは、特にバブルがはじけた2000年以降、道路整備や上下水道も含めた公共施設をこれ以上、本当に増やしていくべきかを議論しています。財源難のときに、最初に、要らないと言わ

れたのが公園です。御高齢の方々の健康の場所だと我々は言いますが、少子高齢化で子どもが少なくなっているのに、使っていない公園がたくさんあると言われます。遊具が老朽化している、もっと活性化しないといけない、毎日の生活に必要なものだ、などの言い争いをしているのですが、本日いただいた御意見をそこで話させてもらおうと思っています。

大泉緑地についてもこれ以上お金をかける必要はないという「要らない論」がありました。今までは、大泉緑地は府営公園ですので、地域との関わりは気にしないみたいなことがありましたが、今は、あのような大規模公園でも、地域の方々の手助け、もしくはうまく使ってもらうことが求められています。金岡公園も元々はスポーツ選手の育成を目的とした公園でしたが、健康のために使ってもらおうというプログラムも増えてきていると思います。そのようなプログラムをうまく活用していければと思います。

また、身近な小さな公園については、地域の愛護会の方々に管理していただき、緑化活動をするグループが花植えをされています。地域の方々に御協力をいただいて、公園はつくられているということです。

それからあともう一つ、この北区の資源として、市街地にあります歴史と、自然空間としての農地があると思います。先ほど御意見にありましたクリーンセンターの南手にある農地も一つの地域資源と言えます。金岡まちづくりの会が自主的な活動として農地の活用を始めて、もう14、5年になります。当時は40歳で、若手のまちづくりの会と言っていましたが、もう5、6年したら60代の方々の会になります。そこで、始められた取組が先ほど御意見にありました収穫祭です。これは多世代交流です。中学生が植えるというお話がありましたが、ここでも中学生が授業の一環で種から苗にしてくれるわけです。それを今度は子ども会の方々と一緒にため池の堤、長池の堤に植えていきます。また、田植えも一緒にします。田植えを手伝ってくれているのが、農芸高校の方々、地域の方々、子ども会の方々、中学生です。中学生は聞くところによると、理科部は強制で、初めは野球部が強制で練習の一環として始まったとのこと。秋になりますと収穫です。稲刈りをして新米を楽しみます。そこでは、中学校の方々が、地元野菜の販売をして、多世代交流になっています。

何か一つのことをきっかけに、登場人物が増えていくことによって、そこに集まる人々の中で、交流が発生していきます。農地でも多世代交流の取組が行われているということを御紹介しておきたいと思います。

先ほど、北区まちづくりカフェの中で、マルシェの実現に向けたアイデアが出されているとのご報告がありました。このマルシェはもともとヨーロッパの朝市からきた言葉です。最近では、御堂筋やうめきたといったところで、新鮮な野菜を、また変わった野菜を販売して注目されています。実は金岡の中にも、地域の資源として、地元の野菜などを販売できる農地があるということも書きとめていただければと思います。

それでは、次に、資料1の「③効果的な情報の発信と共有」について、御意見をいただきたいと思います。本日、お話いただいたことや、今までお話いただい

ることがうまく情報として発信、共有できていないのではないかとということで、効果的な情報発信と共有についての御意見をいただいています。

まず、小学校のホームページを参考に自治連合協議会のページを制作するという御意見です。今はホームページで発信するのがやりやすくなっていますので、先生方がこまめに情報発信されていて、私も子どもの学校のページで、こんな給食を食べたのか、こんな運動会の練習をしたのかとよく見るようになりました。

次に、SNSを活用する、北区役所エントランスホールに情報モニターを設置する、北区の多世代交流の活動を紹介したチラシを作成して、堺市広報と同時で配布をするという御意見です。広報については、パソコンやスマホを使えない人たちにも情報を伝達できるということです。

次に、各校区のまちづくり協議会のニュースを隔月程度で発行するという御意見。

最後に、各校区のボランティアや担当役員が一定期間のブース設置等を行い、各種団体間の情報交換や共有をしやすくするという御意見です。

これらの御意見についても、補足や追加の御意見はございますでしょうか。

小松委員

②の続きで、ポーチュラカについてですが、北区のタウンフラワーがポーチュラカということ、子どもたちや多くの家庭の方は知りませんよね。目立たない小さな花なので、その気になって見ないと気付かないと思います。ポーチュラカは挿しておくだけで二、三日したら根が出てきますので、小学3年生、4年生に理科の勉強としてやれないかと思います。公園に植えさせてくれるのであれば、そのコーナーを子どもたちに管理してもらうなど楽しくやれるのではないかと思います。それを組織的にやるかどうか別にして、自治会のほうからも声をかけてもらって、前向きに検討して下さる先生が一人、二人とふえていき、広げていくことができれば、おもしろいと思います。

加我会長

ありがとうございます。もともと育てやすく、花芽がついている期間が長いので、見てもらえる期間が長く、まちの中にいろどりが長く保てることから、北区のタウンフラワーになったのだと思います。工夫のしどころはあると思いますので、また御検討いただければと思います。

あともう一つ、②のクリーンセンターについてですが、聞くところによりますと、堺市の小学生はほぼ全員がクリーンセンター東工場に社会見学に行っているそうです。その社会見学の時に、リサイクルやごみの減量化の必要性について、つまり、自分たちが生活していく上で必ず廃棄物が出ますので、それを償却することの意味について、勉強しているそうです。また、ごみの減量化に向けてNPOがどのようなごみが出ているのか調査しようといった取組もされているみたいです。東工場の南側に広がる農空間で農業体験や収穫祭をしていますので、そこに来た子どもたちに、東工場の環境学習の一環としたプログラムを提供することも検討されているそうです。非常に可能性のある施設や資源があるということが魅力ではないかと思います。

皆さんから、情報発信について、何か御意見はございますでしょうか。

他に、情報が大量に流れ過ぎていることがあります。インターネット上の情報発信も重要だと思います。また、一つの媒体だけではなく、多様な媒体があるということも重要です。ここに挙がっているような取組が一つでも実現すれば良いと思います。

そして、あともう一つ、事前に区職員の方たちとお話したこととして、格好いいおしゃれなチラシの作成があります。情報が入っていることは重要なことだと思いますが、情報だけが並んでいるのではなく、学生など若い人たちが見てみたいと思えるようなチラシやウェブページ、フェイスブック、インスタグラムの作成をやっていただければと思います。

それでは、最後の「④その他」についてです。本日は簡単に御紹介だけさせていただいて、議論を深めながら、意見交換していきたいと思います。

まず、先ほど、講座に参加すると、それがきっかけで、新しくグループができることがあるという御意見をいただきましたが、半年以上の長期のプログラムで講習会を開催して、それをきっかけに地域の次世代リーダーの育成を図るという御意見です。

次に、横系列の関係づくりを意識して、気軽に参加して意見が言える機会を提供するという御意見です。

また、時間や金銭的に余裕がない核家族や共働きの方、シングル家庭の方々が増加していることから、自治会を初めとした地域の任意団体への加入者が減少しており、役員の引き受け手がないということも課題となっています。マンション管理組合が管理運営会社に委託するということがよくありますが、課題を解決または軽減するために、地域の任意団体も、NPO法人や有償扱いの任意団体等に運営面を委託するというのも考える必要があるのではないかと御意見です。

次に、日ごろの活動や交流会、ニュース発行のような活動をするためには「場」が必要で、地域会館や公的施設をもっと有効に活用できれば、多世代交流を初めとした活動を活性化させることが可能になるのではないかと御意見です。

そして、青少年や子ども達の気楽な居場所として、社会教育主事のいる公民館を設置することの必要性や、多世代がともに地域を学ぶ「場」としての歴史文化の展示場所が充足しているのか確認する必要があるという御意見をいただいています。

これらについて、補足や追加等はございますでしょうか。

奥田委員

3番のNPO法人や有償扱いの任意団体等に運営面を委託するという御意見ですが、ここまでしなくても、例えば連合会の中でパソコンに秀でた主婦の方が色々な作業のサポートを有償で行うというのも有用かなと思います。私に関わっている連合会では、そういう人を置いています。そうすると、まちづくりに関して、そういう人が下支えをされているので、結構活発に色々なことをやられていました。

加我会長

ありがとうございます。日本では、本当に皆さんに御苦労いただいているように基本は無償ボランティアです。これに対して有償ボランティアという考え方もござ

<p>大江委員</p>	<p>います。これからはそういうことも考えていけないかもしれません。また、これは個人の持っている技量を活用することだと思いますので、そういう人の発掘や上手に頼めるような方法を考えていく必要があると思います。</p> <p>効果的な情報の発信についてですが、北区ホームページのトップページの構成が本当に住民のニーズにあっているのか難しいものがあります。北区はまだいい方だと思います。例えば、トップページで「早引きインデックス」として、人生の出来事で妊娠・出産、育児・子育て等、それぞれのニーズにあったものをここへ羅列している。これは必要だと思います。本当は、ここが一番中心になるのではないかと思います。もちろん「区の概要」や「地名のあれこれ」も大事ですが、いわゆる優先順位で、これが第1位、第2位、第3位という形で情報の項目を、一度整理する必要があるのではないかと思います。効果的なコミュニケーションができるということが大事だと思います。</p>
<p>加我会長</p>	<p>私の大学のホームページはそういうふうになってきたと感じています。誰のためにホームページをつくっているのかというと、受験生のためです。大学の理念はどこにあるのかというかたいことよりも、受験生が見たくなる入試情報等がすぐ上にあります。</p> <p>「区とは」という情報よりも、妊娠をされている方、子育てをされている方、また介護が必要な御高齢の方のように、区役所によく来られる方々をターゲットにホームページを作成してみるのも良いかもしれません。誰が見て、どんなことが今必要とされているのか、メリハリをつけることが必要なのかもしれません。</p> <p>では、そろそろ時間もきましたので、本日はこのあたりで終了したいと思います。また、日ごろの活動の中で、お気づきの点がございましたら、次回の会議もしくは区のほうに届けていただいて、議論を深めていければと思います。次回の会議でも引き続き答申書の作成に向けて審議していきたいと思いますので、御協力の方よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、これで第1回北区区民評議会を終了いたします。本日は活発な御意見、また経験談を出していただき、ありがとうございました。</p>